

福居

平成元年 6月20日発行

発 行 所

福井商工会議所青年部

発行者：林 逸 男

編集者：発 坂 卓 雄

平成元年度 定期総会開催される

今年度は「さくら」を最重点事項に

平成最初の福井商工会議所青年部定期総会が、さる四月二十日（木）、福井商工会館常議員室にて会員五十三名が出席し開催された。開会に当たり、昨年制定された商工会議所青年部の歌「伸びゆく大地」を出席者全員で合唱した。

昭和六十三年度永井弘明会長の議事進行で昭和六十三年度事業報告、収支決算案が承認された。また、今年度結成予定の「青年部OB会」との関係で特別会員制度と一部役員に関する規約の改正が提案され、賛成多数で可決された。次に平成元年度会長に林逸男君が選任され、新役員、理事が紹介された。

今年度には特に林新会長の方針で役員会に出席が義務づけられるのは委員長のみとし、（従来は正副委員長）役員としての責任の自覚を強調した体制としたところが注目される。

平成元年度事業計画が発表され、それに伴う収支予算案が審議され承認された。その後林会長より平成元年度の基本方針の説明と会員各位への支援、協力の呼び掛けがあった。

今年度の従来と違う点は、「さくらルネッサンス事業」をメイン活動とし組織の総力をあげて取り組み、他のいくつかの事業もこれに連動させることにある。新会長の抱負と挨拶の後

総会の来賓として福井新聞社論説副委員長の松島翠氏に「青年部活動に期待する」というテーマで特別講話をいただいた。松島氏は現在当青年部が展開している「さくらルネッサンス」

運動に対し以前より深い関心を寄せる有力な理解者の一人であり、福井新聞の論説に、好意的な一文を執筆された。松島氏の愛情あふるる励ましの言葉に、会員は熱心に耳を傾けた。



『さくらルネッサンス』 キャンペーン展開 始動



我々福井商工会議所青年部の事業「市民の広場」の一つの流れとして「足羽三山」の整備があります。福井市制百周年という記念すべき本年、我々「桜の植樹委員会」が企画し青年部全体で取り組む「さくらルネッサンス」事業が本格的に始動いたしました。「市民による市民の共有財産づくり」ということで、企業・団体への協力要請は、青年部会員が直接訪問し、ご理解を得る活動を展開中です。

また、一般市民、個人の方には、特にご理解いただくよう様々なキャンペーンを展開しなければと考えています。第一に商工会議所所報への記事掲載、新聞・テレビ・ラジオなどマスメディアを活用した広報がありますが、一番力を入れていけるのは直接市民に呼びかける方法です。私達はいろいろな機会をとらえ、募集と啓蒙活動を展開しています。以下、最近行ったキャンペーン活動と、その際見聞した「市民の声」をいくつかご紹介いたします。

例年「福井市ファミリウォーク」が開催されます。次頁に次ぐ

数多くの市民のご協力がありました



講話の後、今回初めて総会に出席した新入会員に会長より当青年部の記章が贈呈された。

総会修了後、地下レストラン「寿」に会場を移して「懇親の集い」を催した。乾杯の後九名の新入会員の自己紹介を行ない、懇親に入った。話題は、やはり「さくらルネッサンス」で特に現在中心的に展開している実行委員会の主要メンバーから、運動中のエピソードの披露があり、四月九日に「足羽山ファミリウォーク」でのキャンペーン中、市民から暖かい善意の寄付金を受ける等、記念樹募集の苦労話とともに我々を一層勇気づけてくれた。

奥村会員委員長の絶妙の司会で行なわれた「懇親の集い」はその後、小川修「桜の植樹」委員長の「さくらルネッサンス事業」への長い経過の披露があり、それを受けて、忙しい中最後まで参加いただいた松島



氏よりスピーチがあり、今回のこの運動が一過性ものでないことに、お褒めの言葉をいただいた。

また、今年度より当青年部の顧問に就任した元全国商工会議所青年部連合会会長古川伸二氏より激励のスピーチがあった。

会終了にあたり明日へのアクションを誓い中村佳一君の音頭で「ガンバロウ三唱」を全員で唱和し、散会となった。

広報委員長 発坂卓雄

- みなさんよろしく**
—新入会員プロフィール—
- 橋 敏夫**
昭和三〇年六月二〇日生
橋務管理事務所
福井市和田東街区二二一六
伊藤労務管理内
電話 27-13711
FAX 27-6949
 - 野阪 泰樹**
昭和三二年一月一六日生
野阪商事
福井市開発二一四二七
電話 54-7088
FAX 54-8131
 - 原 孝男**
昭和二五年三月三一日生
原デザイン
福井市大願寺二一九一
電話 27-11020
FAX 21-2651
 - 坂川 優**
昭和二七年十月二八日生
越前観光開発
福井市宝永三三二二四
電話 27-3282
FAX 27-6180
 - 三村 貞二**
昭和三〇年六月五日生
三村工務店
福井市新保三一八〇七
電話 23-0693
FAX 27-3599
 - 北出 信二**
昭和二三年四月二四日生
アリス・バー
福井市順化一九一八
電話 23-3006
山下 寛
昭和二四年四月一〇日生
山下行政書士事務所
福井市布施田町
電話 一〇一八八一
FAX 83-0135
 - 松木 延倫**
昭和二五年一〇月五日生
松木延倫事務所
福井市板垣二二四〇七
電話 35-4415
FAX 36-2906
 - 増永 栄一**
昭和二七年四月四日生
三井ビルコン
福井市西開二一〇一
電話 54-0178
FAX 53-4489
 - 佐山 茂**
昭和三〇年一月二七日生
ウラセ合同染工
鯖江市神明二七一四〇
電話 52-1111
FAX 52-1102
 - 高橋 俊男**
昭和二三年一月三日生
熊谷組福井本店
福井市中央二六一八
電話 27-8127
FAX 25-3653
 - 斎藤 真一**
昭和二三年一月五日生
福井トヨタ自動車
福井市下荒井一九一五〇
電話 38-0011
FAX 38-3074
 - 二木 和則**
昭和三二年一月一四日生
福井環境事業
福井市高木一一二一一
電話 22-4463
FAX 22-4394
 - 細川 貞夫**
昭和二五年八月二二日生
京福電気鉄道福井支店
福井市日之出一一六
電話 21-2023
FAX 23-2401

が今回ゴールが足羽山というところで、晴天に恵まれた四月九日キャンペーンを行いました。

初めての屋外での募集活動ということで参加者は胸や背中にポスターを掲げ、手に趣旨を掲載したパンフレットやピンクの大きな募金箱という涙ぐましいスタイルで頑張りました。

ゴール地点の仏舎利塔前広場で、続々入って来る四千人という参加者に、パンフレットを手渡したり、募金呼びかけました。参加者の中には知人が幾人かいて、冷やかされたりしましたが、



こちらが一生懸命「さくら」の趣旨を説明しますと理解してくれ、早速申し込みしてくれました。「植樹」の申し込みこそなかなか頂けませんでしたが、「募金なら」と十円、百円と、ピンクの箱に入れてくださる母子づれや若い人、年配の方など多くおられ、たいへん心励まされました。

二回目の屋外でのキャンペーンは、四月二十三日の福井市制百周年記念式典の会場のフェニックスプラザにて行いました。このキャンペーン実施が決定したのは、ほんの二、三日前だったので連絡に不備があり、大きな反省点となりました。

当日は朝から天候が悪く、四月下旬としては肌寒い一日でした。当日はラジオなどの取材もあり、キャンペーンとして絶好の機会でしたが、一般市民の参加者が今一つ少なくなっかかりました。

三月下旬より正式に運動を展開してきましたが、毎

週一回の委員会の席上、市民の色々な反応、意見を報告しております。以下、一部をご紹介します。

「自分の子どもと思って申し込みました。」六〇代男性
「結婚三〇年の記念に」

五〇代女性
「足羽三山の自然は、ぜひ守って欲しい」 多数の人
「青年部も実際のなよい事をするね」 若干名
そのほか紙面に掲載できない程、多くのご意見、励ま



しご理解をいただきました。今後も「さくら」にメッセージを託し市民の運動として、意義深い活動を展開していきます。

桜の植樹委員会
副委員長
刈安浩道



皆さんよろしく!!



リンチ市長にも励ましをいただきました

桜の木ご寄付 応募者一覧

順不同。
一部掲載。
続きは、次号
以降に掲載。

福井ライオネスクラブ
向坂 幸夫
向坂 次一
中村 忠明
端 俊次郎
織田 勇
織田 明
織田 宏寿
元井 澄男
五十嵐 淳
五十嵐 三郎
五十嵐 聡
吉田 俊行
吉田 仁美
吉田 マサ子
奈須田 鎮雄
稲邦 (株)
上田 哲二郎
山本 和美
山本 光男
山本 浩司
山本 高央
みき美容室
辻本 碩幸
(株) 山毛鉄工所

山本 勝郎
山口 辰幸
玉森 慶三
福井未来研究会
稲垣 学
堀木 俊夫
野村多一郎
岩崎 与夫
藤沢 克美・りさ
橋本 憲治
林 逸男
坪川 哲也
奥山 秀範
松山 通昭
武盛きよの
ワイン&ケーキカマダ
(有) 国見製材所
板倉 祥子
福井県予防医学協会
古川 伸二
(株) 旭観光
田中 康雄
吉田 吉郎
牧野 隆司
小林 初子

吉田 治
田行 晴彦
北陸吉田興業 (株)
太谷 (株)
吉末商事 (株)
村井病院
御食事処さくら
北陸斎川運輸 (株)
富士フナー (株)
エムケー産業 (株)
勝見モーターズ
塚田 則男
加藤 幹夫
(株) ベル
小川 三郎
尹 貞淑
榎谷 良栄
五十川 重市
桜川美智枝
西沢 悟
友田 是直
吉岡詢太郎
木下 昌彦
江守 祐次
岡山 重信・みどり
中村 孝士
宇野歯車工業 (株)
三武 緑
中村 幸代
横山 重喜

塚谷 熊雄・津弥子
荒居 良市
横田 喜孝
竹原 秀夫
藤田 雅史
藤田 友仁
藤岡 裕子
杉岡 恵
瀧波 久志
竹内 康夫
五十嵐香苗
齊藤 勝実
(株) 福井開発ビル
田中 広昌
加賀 龍夫
竹下英二郎
竹下 淳一
長谷川政尾
青山 太郎
北川 恒久
宇野 良子
須谷 久俊
中央食品 (株)
青山建築板金
(株) 山本タイヤ商会
(株) 三輝設計事務所
清川メッキ工業 (株)
シマズジムキ
(株) 石森洋紙店
(株) 見谷

宮崎 敏一
(株) 堀江幸商店
井上商事 (株)
(株) ミルコン
福井信用金庫
(株) 大丸商店
福井トヨタ自動車株
カネタ (株)
河端電気商会
開花亭
京福商事 (株)
伊藤電気
(株) 西武北陸
北陸電装工業 (株)
北陸電気工事 (株)
福井ダンロップ販売
竹下印刷所
味美家
超勝寺
(株) 熊谷組
三谷商事 (株)
友豊環境開発 (株)
勝木 明洋
田中 美奈
永松 久幸
森 淳一郎
高崎 和夫
萬 春子
田中 喬
橋高 七重

今年の「ハートランド」は 足羽三山で開催

8月21日～27日

今年のハートランドイベント企画概要(案)を紹介いたします。

〈名称〉第2回秋色・ときめき・ハートランド

〈開催時期〉8月21日～27日
〈場所〉足羽三山(足羽山・兎越山・八幡山・おさごえ民家園)

〈主な内容〉

●福井再発見・タイムトラアルレース

おさごえ民家園をスタート、ゴールにする。足羽三山及び周辺の史跡などを古地図をたよりに親子ペアで探し歩き、歴史、文化、自然を体感してもらおう。

●広場アート展

いろいろなジャンルのアーティストに、おさごえ民家園を主会場にして野外展示してもらおう。
●ハートランド・コンサート

アマチュア音楽家が一堂に集い大コンサートを開催。クラシックからジャズ、ポピュラーまで。おさごえ民家園を使用。



●フォトコンテスト

《今足羽三山がおもしろい。足羽三山を撮ろう》と題して、各種イベントの参加者同士のふれあいをテーマに気軽に応募してもらおう。

●写生大会

子供たちに本事業への理解を深め、足羽三山の見直しを認識してもらうために、本事業や、足羽三山の名所・旧跡を描いてもらおう。

●国際ランプ村

竹製のビッグハウスにランプを数百個吊り下げ、人形劇の公演を行うなどして、竹が作る空間での遊びを提案する。

- 渡辺 艶尾
- 八田志づ子
- 前川 一雄
- 水上 助信
- 土田 敏明
- 江守 康利
- 新田 至郎
- 広部 信雄
- 吉岡 隆治
- 前田 清彦
- 森口 洋助
- (有) 大島通信工業
- 織田 憲三
- 有名会
- KATANNA
- 下家 茂
- 福井市和田小学校職員一同
- 笹岡 克宏
- 福山 奈於美
- 錦助安商店
- 森下 佐幸・ひろ子
- 北川建築設計事務所
- 天野 博子
- 天野 吉壹
- 天野 朝子
- 天野 恵
- 天野 詠子
- 天野 準一
- 山本 利也

- 山本 宏史
- モリ デンタル
- 新ダイワ工業(株)金沢出張所
- 坪田 高明
- 中山 卓也
- 日種 聡志
- 北川 雅巳
- 大丁 雄治
- 大丁 泰枝
- 大丁 智子
- 大丁 雅子
- 斉藤 利一
- 中村 敏雄
- 清水 紫皓
- 中村 秀美
- 石橋 主計他4名
- 水野 茂治
- 浜岸謙治
- 藤永潤栄
- 三津井証券(株)
- 紅谷 一利
- 城川 康雄
- 金山 治男
- NYAYOR JOHN A
- And DEBORAH LYNCH
- 宮崎 紘平
- 平瀬 航
- 吉田 吉次郎
- 赤井 圭一

「現状と今後の在り方」で

全体会議

県商青連 会員大会

去る六月二日、武生市の市民ホールを会場として福井県商工会議所青年部連合会(県商青連) 会員大会が開かれた。

大会は式典、全体会議、懇親会の三部構成で、百六十余名の参加者を集めて盛大に行なわれた。

午後二時より開会、君が代と、商工会議所青年部の歌の斉唱の後、主管である武生商工会議所青年部より歓迎の挨拶があり、いよいよ第一部の式典に入る。

まず主催者である県商青連会長の玉木達雄君より挨拶があり、続いて定期総会の報告があった。

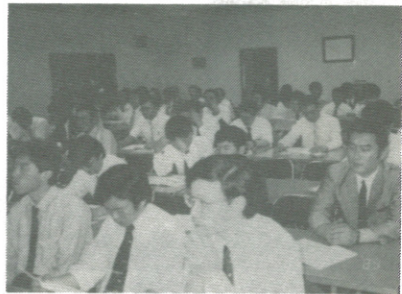
ここで、我が青年部の古川伸二君が、県商青連相談役として活躍貢献したことに対して、連合会より感謝の意をこめての表彰を受け

た。福井市にとどまらず、福井県そして全国へと活躍の場を広げられた古川伸二君に深い尊敬の念を抱くと共に、我が青年部として大いに誇りに思うところであった。今後益々の活躍を期待したい。

続いて来賓の武生市長、武生商工会議所会頭のご挨拶をいただき、その後県商青連の副会長に就任した当青年部の永井弘明君の閉会の辞で、式典は終了した。

二時四十分からは、全体会議として、「各青年部の現状と今後の在り方」というテーマでの討論会が行なわれた。コーディネーターとして県商青連会長の玉木達雄君をおき、各青年部より一名ずつの発表があった。

発表内容は、今年度の事業活動方針や、青年部の悩



み、問題点、そして今後の青年部の在り方などで、当青年部からは奥村会員委員

会委員長が、さくらルネッサンス、市民の広場、ハートランドなどの事業説明や、会員数の不足などの悩み、そして沈滞気味の福井の中で青年部こそが時代を担う集団として活動していくべきだとの力強い主張をした。

他の青年部からも、その活発な事業内容の説明があり、それぞれの活動力に感心しつつ、またどの単会にも出席率の低さ、会員不足という悩みは共通してあるよう、他に親会議所と関係がうまくない、JCと区

別がつかないなどの問題もある様だ。

最後にコーディネーターの玉木会長から、まとめの言葉があり閉会になった。

四時からは会場を移動して懇親会が行なわれた。武生青年部の手作りという豪華な料理はバイキング形式で、ピアノの演奏とビンゴゲームのアトラクションもあり、なごやかな雰囲気ながら、盛大な懇親会だった最後に、先に表彰を受けた古川伸二君による万歳三唱でお開きとなった。

広報委員会副委員長
中村 佳一



明日の繁盛店を科学する
FURUSAKI

株式会社 古崎

営業種目

- ・商業施設(S.O)企画設計施工
- ・店舗総合企画設計施工
- ・一般建築設計施工
- ・木製家具、建具設計施工
- ・インテリア什器、注文造作施工
- ・ディスプレイ器具全般
- ・サイン看板デザイン製作
- ・店舗、住宅の物件情報
- ・立地リサーチ及び事業計画

本社 ●〒910 福井市西開発4丁目611番地 FAX.0776(53)1866-TEL.0776(53)0311(代)
店舗情報センター ●〒910 福井市二の宮2丁目3204番地 古崎ビル4F TEL.0776(5)46268

みや 雅びやかに新田義貞隊

越前時代行列に参加

ふくい春まつりのメイン行事「越前時代行列」が、五月四日午後三時半、県庁前出陣で行われた。

福井ゆかりの武将「新田

義貞」「朝倉義景」「柴田勝家」「松平春嶽公」の各隊列など総勢八百五十人が目抜き通りを練り歩いた。

この日の最高気温は二十

七・一度で夏

日を記録した

が、沿道は昨

年の倍近い八

万人の見物客

で埋まり、勇

壮で華やかな

時代絵巻に魅

入っていた。

我が青年部

も「新田義貞」

隊として、林

逸男新会長ら

二十三名が参

加した。例年

のよういかぶ

と姿ではなく、

公家風の狩衣



我が青年部も「新田義貞」隊として、林逸男新会長ら二十三名が参加した。例年のよういかぶと姿ではなく、公家風の狩衣

(かりぎぬ)を着込んで幟旗を掲げての行進は、一種雅びな雰囲気醸していた。特に林会長は「新田義貞」として、駿馬とよべそうなる美しい馬に跨り、行列を華やかに盛り上げていた。

コースは県庁から城町通り、さくら通り、呉服町通りを南進して九十九橋へ、足羽川河川敷に集結という、

約二・八キロ。途中、行列は、順化小前で次々と演舞を披露。我が「新田義貞」隊も口上と、古式兵法を披露、盛んな拍手を受けた。しかし、その演舞の披露のために、八百三十五メートルにもなる行列が、二時間以上も停滞するのは、考えものだ。待ち時間を持て余し、勇壮であるべき若武者が道路のまん中に座り込んで缶ビールを飲んでいたり、道端の木陰で雑談にふける光景は、見物客、観光客の目にはどのように映っただろうか。「新田義貞」隊は、奥村豊一会員委員会



委員長の演出で、なるべく雰囲気を変えないよう努めたが、一時間以上の炎天下の待ち時間には、少々減入ったようだった。こういう行列は、歩調はゆっくりでも、滞らずサーッと流れた方が、見栄えはよりよいのではないだろうか。まして観光行事であれば、なおさら見物客へのアピール性を重要視すべきではないだろうか。越前時代行列の前半の演出には、ぜひ一考をお願いしたいところだ。広報委員会副委員長 江守 康利

「越前時代行列」に参加して

会員委員会副委員長

竹下英二郎

五月四日晴天の下われわれ福井商工会議所青年部は、昨年までと異なり青年部だけで「新田義貞」隊一隊を担当しました。

多数の出演者の中で、われわれ「新田」隊は、ひときわ目立ったのではないかと思います。なぜなら、時代考証により、他の隊と違い鎧兜の武者姿でなく、神官?



姿が多数いた事と、足羽川の河川敷の大ステージで演舞「パフォーマンス」を披露したのが我々だけだった事があげられます。かがり火を焚いた河川敷の舞台は、それなりに幻想的な雰囲気味わわせてくれました。我が隊の目立ったもう一つの理由は、マイケル君という強力な外人助っ人が参加したこと。彼は、福井市と縁が深いアメリカのニューブランズウィック市のラトガース大学出身で現在福井高校の英語講師として勤務している青年です。特に日本の剣道に強い関心を持っているということで、今回積極的に希望して参加してくれました。大柄な体付きと気さくで明るいキャラクターのおかげで、沿道の観客の人気を集めていました。

最後に今回担当した会員委員会として気づいた事を述べますと、まず青年部の参加予定者は三十一名でしたが、当日都合で欠席され

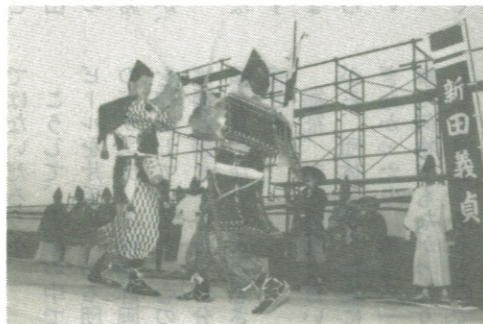


この太鼓重〜い!

た方が割と多かったという点です。それと本番までに演舞や演出などにも少し工夫を凝らし、事前に練習できる時間が持てれば、もっとメリハリのある行事として市民に定着するのではと思います。



「九十九橋」を渡る我「新田隊」



日米決戦?ではありません

企業訪問

芦原温泉

グランディア芳泉

今回は入会して一年の山口透さんの会社グランディア芳泉に伺いました。

——「グランディア」という言葉の語源は

よくお客様からも聞かれますが、実は造語でして、大きいとか広いという意味の「グランド」と、理想郷という意味の「アルカディア」や、「ニューメディア」という「ディア」を合わせてできた言葉です。当初は慣れないもので、私も社員も苦労しました。

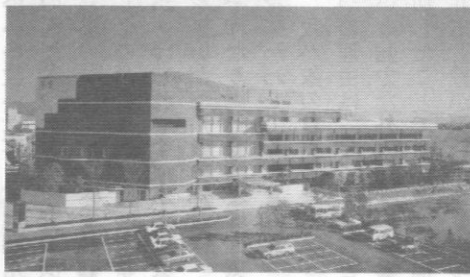
苦労話をもうひとつ。うちには八十名近い接待係がおります。若いピチピチギャルから、この道四十五年の大ベテランさんという具合で、全国から、いろいろな言葉を持って集まっています。顔と名前と言葉が

判るようになるのにかなりの時間を要しました。

反面面白いことも多い商売です。毎日各地からいろいろな人が泊まりにみえますから、全国の言葉や話題が聞けますので、どこにも行かなくても全国を旅行している気分になります。

——大きな建物ですね

現在は七〇〇名収容できますが、来年は新館増築の予定で、一、二〇〇名様が泊まりいただけるよう計画しています。会員の皆様もぜひ、お気軽に遊びにおいでください。



リレー随筆

車中で、ふと思う

榑中村屋精肉店

専務取締役

中村秀一

明治四十一年九月一日から十二月二十九日まで「朝日新聞」に連載された夏目漱石の「三四郎」の中に以下のような一節がある。

『此時三四郎は空になった辨當の折を力一杯に窓から放り出した。』これは、名古屋へいく汽車での出来事である。この当時、車中で出たゴミは窓から外へ捨てるのが常識だったのだから。作者は普通の行為として書いているのがおもしろい。

実は、私は今、仕事で名古屋へ行く車中の人なのである。私の隣に座った五十代の男性は、福井で買ったカニ弁当を食べ、今まさに座席の下へ押し込もうとし

ているところである。ふと、

「三四郎」の一節を思い出したのである。私が子供の頃は、車中でゴミは座席の下へ押し込んでおくのが、ごく普通の行為であった。

しかし、家族で旅行の時などそんなことをしたら、すぐ子供達に非難されてしまう。何十年前前は、窓からゴミを捨て、座席の下にいれる時代を経て現代はデッキのゴミ箱まで持って行くまでに道徳が変わってきている。

これは時代が進み環境が整備され、日常生活におけるモラルが向上してきたからであるが、漱石の時代に生きた人々は全員窓からゴミを捨てていたのだろうか、家へ持ち帰る人はいなかったのだろうか、ふと単純な疑問を感じた。

老人についても、殺老の時代、棄老の時代を経て、養老の時代、そして今は敬老の時代であるが、心の中は、常に殺老時代から敬老時代までを往復しているの

ではないだろうか。

こうして、電車の中で、ビールを片手に、ある団体のポランティア活動計画書を作成していると、心の中は揺れ動き、自分で自分の顔が見えないことに恐さを感じる。

福祉、奉仕活動と言いながら、団体の売名行為にすぎなかったり、単なる一行事の何物でもなかったりすることがよくあるものである。

弁当を捨てる行動から、いろいろな事柄を思い浮かべているうちに、ふと、このことをリレー随筆に書くうと思った。書くために、久しぶりに漱石全集をひもといた。私の趣味は読書ですと言えた時代がなつかしい。今は、ただ雑務に多忙をかこつ毎日が続いているが、この辺で自分の時間をとりもどさないと……。

今回は坂川優さんにバトンを渡します。